

平成21年度七ヶ宿中学校総合演劇

追憶の不忘山 時を超えた絆



演出総括



七ヶ宿中 橋本 牧 先生

64年前の出来事等を、地域学習会とおして学んできました。昔の人は、本当に一生懸命生活しておられました。そのような生き方を子ども達にも感じてもらいたいと思いました。ご家庭でも、世代を超えて大切なことを語り伝えていただければと思います。

昭和20年8月15日に幕を閉じた戦争の時代。この七ヶ宿町からも多くの若者が戦場に向かい尊い生命を落とした。昭和20年3月10日未明、不忘山に墜落した三機の米軍爆撃機。そのことを現在に伝える不忘の碑は、静かに山頂にたたずんでいる。暗い戦争の時代をひたむきに生きた人々の姿から平和の尊さを考え、今、自分たちに何ができるのかを真剣に見つめていく…。

昔の人の生活は、現代の生活に比べれば裕福ではないですが、親に頼らず何でも自分でやるたくましさを感じました。七中生みんな演劇を演じ、絆が深まりました。



七ヶ宿中3年 渡部亮太君



七ヶ宿中3年 岡南幸さん

今回の演劇の舞台は、日本の歴史の中で最も悲しい出来事が起こった第二次世界大戦でした。きつとその頃の時代は、私が想像するより辛く、悲しいことがたくさんあったと思います。一生懸命演技しました。七中生もこの演劇を通して、争うことの悲しさや平和の大切さを、改めて学べたと思います。



七ヶ宿中3年 小山光歩さん

中学校生活最後の演劇で、私は考えるだけではなく、行動に移すことを学びました。戦争当時の暮らしや出来事などについての知識はありましたが、行動に移さなくては何かも、小さな事からでも始める大切さを知りました。そして、見にいらしていただいたたくさんの方々、ありがとうございました。



▲貧しくてもひたむきに生きた子どもたち

↓というものでした。第二次世界大戦終戦後64年が経過し、生徒はもちろん、先生も保護者も戦争を知らない世代です。そのよくな中で取り上げた不忘山への米軍爆撃機の墜落の歴史。10月には生徒自らが不忘山に登山し、墜落現場を訪れるなど入念な準備をしました。インフルエンザの流行により、一度公演日が延期、キャストが揃わない時期もありましたが37名の生徒たちは見事に演じりました。

演劇を通して、平和の尊さや二度と繰り返してはならない悲惨な歴史や、その時代の人々の、ひたむきな生き方を学んだ生徒たち。観客席でも涙を流す方が多く見られ、観衆の思いも同じだったと思います。何不自由ないこの時代に生きていくことがいかに幸せで、だからこそ一生懸命に生きていく事が大切ということを感じさせられる、とてもすばらしい演劇でした。



▲すばらしい演劇を演じてくれた七ヶ宿中学校のみなさん



▲墜落する爆撃機、米兵にも愛する家族がいた



▲墜落現場に行った消防団員



▲召集令状 家族は思いを胸に…



▲64年後の再会